

令和6年度 学校評価報告書

学校番号(小64) 長崎市立(野母崎小)学校

1 教育目標

自ら学び、心身ともにたくましく、人間性豊かな実践力のある児童生徒の育成
(教育理念)～総がかりで、夢を抱き、志を育み、未来を拓く小中一貫教育～
(校訓) 進取(進んで)・調和(共に)・創造(創る)

2 学校経営方針

- (1) 「個を生かし、個が生きる」この一心で学校経営
- (2) 願いを一つに揃えるため、教育活動の指針は校訓、到達すべきは学校教育目標
- (3) 夢や理想を語り、その追求を続ける一人一人であることを目指す
- (4) R・V・P・D・C・Aのマネジメントサイクルによる学校経営
- (5) 命の教育を根底においた基本的生活習慣の確立
- (6) 子どもをど真ん中に据え、総がかりで支え、感動のある学校
- (7) 信頼される学校
- (8) 保護者・地域等と連携した学校(コミュニティースクール)
- (9) 学力向上を図る学校(GIGAスクール構想の実現)
- (10) 特別支援教育の充実(個別最適な学び・協働的な学び)
- (11) 働き方改革は意識改革(働きがいのある職場)

3 重点目標

- (基本的な考え方)「教育活動の指針は校訓、到達すべきは学校教育目標」「進取・調和・創造」
○「創立10周年事業」計画の推進 ○学校・学級の行事は基本、保護者や地域へ公開 ○平和を創る人を育てる平和教育の充実
- (1) 基本的生活習慣の確立(あいさつ、はきものそろえ、「あ・は・は運動」の推進、体力の向上)
- (2) わかる授業、個に応じた授業の展開(一人一台パソコンの有効活用、小中一貫教育を生かした授業改善)
- (3) 保護者・地域との連携(コミュニティースクールの充実)
- (4) 働き方改革による教育の質の向上
(ノー残業デーの小中統一、校務支援システムを活用した会議の短縮、児童生徒の成長・頑張りの共有)

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	92	84	92	児童および保護者については昨年度から微増か横ばいとなった。教職員からはやや厳しい結果となった。毎学期行う教育課程の反省を生かし、実効性あるものとしていきたい。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	81	90	100	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			92	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			83	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	88	81	83	児童は総じて高い評価となった。保護者は平和教育への認識が高くないが、各学年発達段階に応じた学習を行っているため学校として一層の発信が求められる。教職員は生活・生徒指導に課題を感じている。反省によりその原因を突き止め、改善に向け全教職員で具体的方策を講じていく。「あ・は・は運動」についての認識はいずれも高くなかった。意図的に学校・学年で啓発を行いたい。
		挨拶をよくしている	93	82	75	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	80	74	67	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	91	80	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	98	75	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	97	88	100	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	98	73	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	96	87	100	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	98	87	100	保護者は家庭学習の定着について肯定的意見が少なかった。基本的に家庭が受けもつものだが、学習方法について手引きを作成し意識づけする、通信などで協力を要請するなど一層の啓発が必要である。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	97	89	92	
		家庭学習の習慣が身に付いている	91	66	83	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	96	81	75	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	93			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	97	91	100	体力向上の項目について大人（保護者・教職員）が課題と感じている。基本的生活習慣の定着については家庭への啓発を継続する。体力向上については外遊びや体力トレーニングの時間を活用して運動量の確保を図る。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん（基本的生活習慣）が身に付いている	80	79	83	
		体力向上に努めている	91	84	83	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	97	89	83	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	98	84	100	いずれの項目も保護者と児童・教職員の意識にずれが生じている。学校の思いや実践が保護者に伝わっていないことを自覚して、HPや懇談会などでの広報を強化する。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	98	80	92	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	99	80	92	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			83	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	96	91	100	日々の環境整備の取組が正当に評価された形である。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

〈成果〉

- 小中一貫のテーマで授業改善に取り組んだ結果、児童にとって分かりやすい授業を行うことができた。
- 衛生管理、食に関する指導を徹底した結果、「健やかな体を育む学校」として認識されている。
- 教育環境、職場環境が整っており、働きやすい職場である。

〈課題〉

- 基本的生活習慣について児童の意識改革、保護者への啓発が必要である。
- いじめ防止の取組が保護者へ十分伝わっていない。児童、教職員の意識との隔たりがある。予防的生活指導は目につきにくいので、理解をどう広げるかが今後の課題である。
- キャリア教育の取組が保護者へ十分伝わっていない。児童、教職員の意識との隔たりがある。学校のどのような教育活動がキャリア教育なのか、広報できるとよい。

6 学校関係者評価

学校運営協議会における意見より

- ・家庭学習の定着がなかなか進まない印象を受ける。
- ・教職員による宿題のまる付けの精度をある程度統一できないか。
- ・地域行事への中学校生徒の参加が少ない。部活動の対外試合等で親子そろって忙しいことは分かるが、地域行事の存続が危ぶまれているので参加してほしいところである。
- ・学校行事に地域から参加できる要素があってもいい。
- ・学校からの情報を、地域へ提供する機会が増えるとよい。
- ・職場環境について小中教職員の感じ方に違いがあるのは、どのような原因からか分析が必要。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・家庭学習については基本的に家庭が受けもつものだが、学習方法について手引きを作成し意識づけする、通信などで協力を要請するなど一層の啓発が必要である。
- ・宿題のまる付けは教職員間で共通理解を図りながら指導につなげる。
- ・地域行事について児童生徒への広報は折にふれて行っている。保護者連絡ツールなども活用し、呼びかけを強められるとよい。
- ・地域を巻き込んだ学校行事のあり方を模索していく。
- ・学校からの情報はHPをとおして広報しているが、適宜紙媒体で各自治会に回覧していただくことを検討する。
- ・一貫校の特性を生かし、小中の関係職員で情報共有することで双方の職場環境の改善に努める。